

適切な行動をしよう

大雨災害から身を守るための行動には、避難場所などへ避難する「立ち退き避難」と建物の上階へ避難する「垂直避難」があります。災害に応じて、どのように行動すべきかをあらかじめ決めておきましょう。

洪水

浸水が浅い地域



自宅の2階以上へ移動

浸水が浅い場合は、自宅の2階以上など屋内の安全な場所へ移動しましょう。

大きい川の堤防のそばや2階以上の浸水の可能性



避難場所などへ移動

自宅が川に近い場合は、家屋が水没や流失する危険性があります。速やかに避難場所などの安全な場所へ移動しましょう。

土砂災害

自宅近くに危険箇所がある



避難場所などへ移動

家の近くに土砂災害の警戒区域や危険箇所がある場合は、避難場所など安全な場所へ移動しましょう。

外に出るのが困難な場合



2階以上の斜面から離れた部屋へ移動

大雨で避難場所に向かうのが危険な場合や立ち退き避難が間に合わない場合は、直ちに2階以上の斜面から離れた部屋へ移動しましょう。

立ち退き避難のときの避難場所は
指定緊急避難場所

災害の危険から逃れるための避難場所は、災害の種類ごとに市が定めています。立ち退き避難が必要な場合は、5～7ページの一覧表を見て、洪水、土砂災害それぞれの避難場所を確認しておきましょう。

事前に確認 自宅付近の浸水や土砂災害の危険を確認しておこう

洪水ハザードマップは区ごと、土砂災害避難地図は順次連合町内会の区域ごとに作成しています。お住まいの地域の地図をご覧ください。

洪水ハザードマップ

どの河川の氾濫で、自宅がどれくらい浸水する想定かわかります。



土砂災害避難地図、土砂災害危険箇所図

崖崩れや土石流の危険箇所、警戒区域を確認できます。



配布場所 区役所(土砂災害危険箇所図は閲覧のみ)のほか、ホームページでも見られます

札幌市 災害危険箇所図

検索

ハザードマップや土砂災害避難地図の内容に関するお問い合わせは、市役所7階危機管理対策室 ☎211-3062まで